

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100212		
法人名	有限会社 美大		
事業所名	グループホーム大河		聖花
所在地	宮崎市古城町長田5911番地		
自己評価作成日	平成26年9月15日	評価結果市町村受理日	平成26年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4590100212-00&PrefCd=45&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	聖花	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に掲示している理念を読み上げ、日々の介護が理念に沿ったものになるように、職員間で確認し実践に繋げている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	古城保育園や近隣グループホームとの定期的な交流、市民清掃の参加、古城小学校生の登下校時に挨拶を行っている。また、自治会にも加入し、地域の方との挨拶は欠かさず行うようにし、交流の機会を創出するよう努めている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	県看護師協会や介護初任者研修生の受け入れ、中学生の福祉体験の場を毎年提供し、認知症の方への理解や支援方法を伝えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の状況やホームの運営状況を会議の中で報告している。入居者様・ご家族から意見・要望があった場合は、ご家族・職員・会議参加者を交えて話し合い、実行できることは即改善を行っている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が行う研修に積極的に参加している。不明な点は、地域包括センターや市の担当課と協議し密に連携している。また、運営推進会議には、元認定審査係主幹を委員としてお招きし、アドバイスをいただいている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員会議で身体拘束に関する研修を行っている。具体的な身体拘束の事例や切迫性・一時性・非代替性を理解し、身体拘束のないケアを行っている。玄関等は7時から21時まで施錠せずにセンサーで対応している。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修に参加し、学ぶ機会を持っている。学習した内容は、研修報告書を作成し、職員会議で全職員へ伝達している。理念にも個人の尊厳を謳い、虐待防止の徹底を図っている。			

宮崎県宮崎市 グループホーム大河(聖花)

自己	外部	項 目	自己評価	聖花	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が外部研修に参加し、職員会議の時に全職員に周知している。実際に後見制度を利用されている方もおられる。ご家族には運営推進会議では任意後見制度を悪用された事例等を報告し、また、日常生活自立支援事業は、市社協に相談されるよう案内している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様・ご家族の要望を聴き、十分な説明を行っている。また、契約前にはできる限り、ご家族だけではなく、ご本人にもホームの見学を行ってもらい雰囲気を感じていただき、納得されてから契約あるいは解約をしている。改定については家族会と協議し、了承を得る手続きをとっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から入居者様・ご家族とのコミュニケーションをとり、話しやすい環境づくりに心がけている。家族会・運営推進会議や日頃の会話の中で出されたご家族からの要望については、経営者・職員・ご家族を交え話し合い、改善を行っている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議には経営者が参加し、職員の意見を聞く機会を設けている。また、日頃から話しやすい雰囲気を作り、意見や提案をしやすいよう努力している。職員からの意見は、経営者・管理者・職員が話し合い、運営に反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間、休日の希望をできる限り聞き、勤務シフトを組んでいる。取得した資格や日頃の実績を考慮し、手当面で処遇している。併せて、キャリアアップを奨励し、職場のモラルを高めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、偏りのないように全職員参加できるようにしている。また、新人職員については、ベテラン職員がマンツーマンでつき、研修を行っている。介護は入居者様と心を交わせる仕事であり、接遇面では特に力を入れている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所のグループホームと毎月相互訪問し、意見交換を行っている。また、グループホーム連絡協議会研修に参加し、ネットワーク作りをしている。さらに、他グループホーム管理者同士の集まりや懇親会にも参加し学んでいる。			

自己	外部	項 目	自己評価	聖花	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人・ご家族に会い、要望を聞き、全職員と話し合い、解決策を見つけるようにしている。利用開始後は、入居者様・ご家族と話す機会を多く持ち、早い段階で信頼関係を築き、要望や希望が出やすい関係になれるようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でご家族の話をよく聞き、以前の生活の様子やご家族の苦勞、思いに共感し、その会話の中から要望や不安及び、ホームでの毎日をどう過ごしてほしいかを聞きだすようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族とよく話し合い、希望されている支援を聞き出し、残存能力や認知症症状を見極め、実現可能な目標を立て、ご家族にも提示して対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と信頼関係を築くことで、何でも話し合える関係になり、入居者様の悩みや現在の思いを聴くようにしている。また、入居者様が職員に対して悩みや相談ができる関係を作れている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の誕生日やホームでの行事にはご家族にも参加をお願いし、一緒に誕生会等を開いている。日頃話される家族への思いを面会時に報告している。行きたい場所や欲しい物があつた場合は、職員だけでなく、ご家族協力のもとに実現できるよう、努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人、友人の面会は多くあり、入居者様の日頃の会話の中から情報を集め、ご家族に報告を行い、希望に沿えるよう、ホームとご家族で協力し対応をとっている。現在も以前より通われていた美容院等に行かれている方がおられる。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考慮し、席の配置を工夫し楽しく交流を持てるようにしている。人との交流が苦手な方には、職員が側につき、うまく交流が持てるようにして、仲間入りがスムーズに出来るよう努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	聖花	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、電話連絡や自宅へ伺い、現在の状況を聞き、悩みがあった場合は相談にのるようにしている。また、新しい場所でもその方が落ち着いて過ごせるよう、入所時の状態や対処方法を詳しくまとめ関係者に伝えている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず信頼関係を築き、入居者様が本音を話せる関係づくりに努めている。その中で日頃の会話から希望や要望を聞きだし、職員だけでなくご家族の協力を得ながら、ご本人の思いが実現できるように取り組んでいる。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される前に利用されていた施設や地域包括支援センター等からご本人の状態を聞き、これまでの暮らし方や生活環境の把握に努めている。また、家族面会時に、本人の好みや友人関係等、入居前の生活の詳しい状況を聞くようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を記録に残し、会議で話し合い、アセスメントシートに記入するようにしている。これはもうできないのではなく、どのように支援すればできるのか会議で話し合い、サポートしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様毎の各担当者を中心に会議で話し合い、ご本人やご家族の希望を採り入れるようにしている。入居者様やご家族の思いがどのようにすれば叶えられるのか、細かく検討・工夫を重ね介護計画に取り入れるようにしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別日誌に、日頃の状態やプランに対しての進捗状況を記入するようにしている。どのようにしたらプランが実現できたか、あるいはできなかったか等を会議で話し合い、今後の実践や計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在の入居者様やご家族のニーズを把握し、入居者様・ご家族・ホーム長を交え、全職員で話し合い、既成概念にとらわれない新しい発想も試み、その時々状況に応じた支援が出来るように取り組んでいる。			

宮崎県宮崎市 グループホーム大河(聖花)

自己	外部	項目	自己評価	聖花	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の訪問や古城保育園との交流も盛んである。買い物や外食に行ったときには、その方が食べやすいように調理方法を工夫して頂くこともある。また、農家が近くの田にコスモスや菜の花を植えて頂く。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携はとれており、在宅療養支援診療所とも連携し、24時間往診の体制もとれている。また、受診時には情報提供書の作成や電話連絡、更に、職員が受診に付き添い詳しく情報を伝え、適切な医療を受けられるようにしている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の体調に充分注意し、変化があればすぐに看護師に状態を伝え、指示を受けるようにしている。また、訪問看護師には訪問看護ノートや個別申し送りノートに現在の状態や処置方法を記入してもらい、全職員で情報を共有している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様の日頃の状態(アセスメントシート)を渡し、状態を詳しく伝えるようにし、定期的に面会に行き、病院関係者との連携を図っている。退院時には医療関係者からホームで生活する上での注意点や入院時の状態を書面でもらうようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明を行い理解してもらっている。重度化、終末期になった段階で再三、ご家族・医師・施設との話し合いを行っている。終末期になった場合は、医師との連携を密にし、ご本人・ご家族の希望に沿った支援が出来るように全職員で支援していく。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議で看護師より緊急時の対応方法を学び、外部研修には消防署が行っている普通救命講習や研修に参加している。研修で習得したことは職員会議で全職員に伝えている。また、AEDを備え、使用方法の職場内研修も行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	減災を指向し、防火管理者のもと、毎月避難訓練を行っている。訓練は昼間だけでなく夜間も想定し、少人数でも避難誘導・通報が行えるように訓練している。また、地域消防団から応援協定をいただき、更にホームに設置してある消防ホースを接続する水源所有者の了承を得ている。			

自己 外部	項目	自己評価	聖花	外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄誘導時には他の方にはわからないように、耳元で小声で伝えたり、オムツ交換時には扉を閉め、タオルをかけご本人のプライドが傷つかないように配慮している。居室のオムツ類は目隠しをし、外からわかりにくいように工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中から思いや希望を聴き、ご本人の思いに沿えるよう努力している。また、日常生活ではご本人の意思を確認し、肯定の意思表示、あるいは拒否の反応がないか見極めてからサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が調理や掃除などの他の業務中でも、常に各入居者様の希望や思いを優先し、対応している。各人のその日の体調、精神状況を考慮し、その人のペースで維持できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昔からの好みなどを、日頃の会話や家族から聞き把握できるようにしている。全職員に聞き取った情報が伝わるように記録に残し、身だしなみやおしゃれで、生活にうるおいを感じられるよう皆で支えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、入居者様が希望されたメニューに変更を行う事もある。調理は入居者様のそれぞれの状態に合わせて職員と一緒にやっている。また、職員と入居者様が同じテーブルで楽しく会話しながら、食事している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは医療機関の管理栄養士に相談し、作成している。食事量、水分量はチェック表を作成し確認している。カリウム制限特別メニューの必要な方は、かかりつけ医の管理栄養士に細かく指導してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔洗浄を行い、義歯に関してはポリドントを行っている。うまく磨けない方に対しては、ご本人が磨かれた後、介助を行い磨き直しを行っている。訪問歯科医よりブラッシング指導や各人の口腔状態に応じたケアのアドバイスを頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	聖花	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でパターンを把握し、できるだけトイレで排泄ができるように誘導、声かけを行っている。また、入居者様の排泄サインを見逃さないようにしている。入居時はオムツを使用されていた方が、現在は布パンツを使用している事例もある。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で便秘の状態を把握している。下剤の使用は主治医や看護師と連携をとり調整を行っている。薬だけではなく水分量や日中の生活を活動的に過ごせるよう工夫し、ヨーグルトを摂取していただくこと、また、腸の活動を促し軽い運動を採り入れる等の便秘解消を図っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望があればいつでも入浴できるようにしている。気持ちよく入浴できるよう楽しい話題を提供しながら行っている。同性でないと恥ずかしがられる方に対しては、職員が交代して臨機に対応している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の昔からの生活環境を把握し、就寝時間は決めていない。また、夜間不安が強くなり安心して休めない方に対しては、飲み物等を用意して隣に座り会話をし、安心して休んでいただくように工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居様毎に薬剤情報を作成し、薬の効果や用法・用量をわかりやすくしている。薬に変更があった場合はその都度修正している。投薬の際は顔写真入りの投薬袋を作成し、サンプルと照らし合わせ、2人で確認し投薬している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔からの生活習慣や日頃の生活の中で、出来る事だけではなく、支援すれば出来そうな事を見つけ、楽しく出来るようにさりげなく職員が支援している。また、嗜好品等本人の楽しみ事は介護計画にも反映している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の会話の中で行きたい場所等の情報を把握し、ご家族協力のもと外出されたり、他入居者様と一緒に出掛けたりしている。外食先では店側が、その方にあった食事形態で対応していただいている。介護タクシーを利用される方は馴染みのドライバーと、仲良く会話をさせる姿もみられる。			

自己	外部	項 目	自己評価	聖花	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望や能力に応じて支援している。買い物などはできるだけ、ご本人が支払いからお釣りまでもらえるように、さりげなく職員が支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話をかけたい時は、職員が支援しながら居室で電話をかけられている。手紙を出したい方に関しても、なるべく入居者様の字で書いていただくようにし、思いが伝わるようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節感を出すように、ホームで咲いた花や収穫された野菜などを飾るようにしている。ウッドデッキや居室で花や果物に職員と一緒に水やり等を行い、育てられている入居者様もいる。ホームの花の水やりなども入居者様と一緒にいき、刺激のない穏やかな環境を創出している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルは入居者様同士の相性を考慮し、座れるように配置している。椅子以外にもソファが置いてあり、仲の良い方と一緒にくつろがれ会話が弾んでいる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や昔から馴染みのある物を持ち込んでもらい、心地よく過ごしていただいている。扇風機やラジオなど日常的に使用する物に関しても、慣れ親しんだ物をご家族と相談し、持ち込んでもらっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・洗面所など入居者様の目線の高さで張り紙をし、場所がわかるようにしている。居室の家具等の配置にしても、入居者様ができるだけ自分の力で行動でき、折触でケガされないように配置を工夫している。			